第２回学校運営協議会

令和４年７月27日（水）９時00分

出席者

会長	妹尾　久雄
副会長	新井　利勝
コーディネーター	小野　修平
委員	鈴木　綾
委員	友田　弓子
委員	宮本　尚登（校長）
委員	矢﨑　慶　（副校長）
	小川　壮司（教員）
	宮﨑　孝平（教員）

市教育委員会事務局（社会教育課）

１　校長あいさつ

新型コロナウイルスの感染防止策を強化している。

９月初めに１年生の移動教室と９月中旬に３年生の修学旅行が控えているが、実施の可否に関しては、８月下旬から９月上旬にコロナの状況を見ながら判断する予定である。

２　令和４年度の地域学校協議活動について

（１）現在予定している内容（７点）

・体験型推理ゲーム
・企業体験「企画・販売プロジェクト」
・犯罪防止「特殊詐欺撲滅プロジェクト」
・次世代型スポーツ「サッセン教室」
・育成会主催「本気のかくれんぼ大会」
・放課後ステイルーム
・学校応援団プロジェクト

委員：　「特殊詐欺撲滅プロジェクト」について、現在コロナで活動できているか不明だが、東小のふれあいのまちづくり運動（以下：ふれまち）で活動している場で披露したらどうか。メインは高齢者の交流と地域を活性化しようという活動なので喜ばれると思う。

委員：　ふれまちか駅前公民館の駅前フェスタのどちらかが良いのではないか。

ふれまちに関しては、社会福祉協議会の地域福祉コーディネーターがいて、毎月１回全体で集まっている。
駅前公民館の駅前フェスタ（10/23）で披露できたら、年配の方も含めて見に来る方もいらっしゃるのではないかと思う。

委員：　ふれまちは民生委員の方も関わっているので喜ぶと思う。公民館の駅前フェスタについては、世代は広いがやり方が少し難しく、高齢者の方に届けるという意味では違うイメージだと思う。

委員：　ふれまちの活動がやっていれば良いと思う。

委員：　活動はどこでやっているのか。

委員：　元々は東小でやっていたが借りられなくなり、今探している。

委員：　保谷駅のペディストリアンデッキはどうか。

委員：　警察と駅に許可が必要になる。

委員：　他にもひばりヶ丘駅の西友の前や田無駅前のペディストリアンデッキなどあるが、誰の前で披露するか考えなくてはいけない。

委員：　高齢者に出向いてもらうのは、しんどいのではないか。

委員：　なじみのない学校に来てもらうのも難しい。こちらがお邪魔する方が良い。

委員：　中学生が行けるかわからないが、デイサービスのような所が良いのではないか。

委員：　ルピナスはどうか。

委員：　１階は子どもが多い。とりあえず、ふれまちに声をかけた方が良い。デイサービスなど考える場合は、泉町、富士町の包括支援センターに確認する。

（２）放課後ステイルームの報告及び計画について

今年度は基本的には、定期テスト前の自習室の開催を続けていくことになった。
第１回目は１学期のテスト前の３日間開催した。
お知らせを作成して生徒に配布した結果、

６/23　１年生８名、２年生１０名、３年生４名、計２２名
6/24　１年生７名、２年生１４名、３年生２名、計２３名
6/27　１年生８名、２年生１名、計９名　が参加した。

机の配置など考えると、人数的には丁度良いと思った。先生を通して明保中を卒業した大学生に来ていただいて、参加した生徒にとても丁寧に応対していただいた。
生徒は先輩がいるというだけでテンションが上がっているようで、廊下から覗いて下校する生徒もいた。

今後については、同じような形でボランティアの方に来ていただけるか、コロナの状況も含めて学校と相談していきたい。昨年度から夏休みの自習室の開催を考えていたが、これについても学校と相談したい。

学校応援団については、現時点では募らない形で考えている。長期休みや新しい取組をする場合に、学校応援団の形をとって広めていきたい。

委員：　勉強以外の取組をどうしていくか検討していきたい。教室に入れない、不登校で適応指導教室にも行けないケースなど、学校で手が足りないのは実は午前中である。

委員：　いわゆるサードプレイスというもののことか。

委員：　学校へ来て、放課後部活をやっている子は良いが、そうでない子について考えたい。

委員：　家に帰ってから勉強する場がない子が図書館や公民館で勉強しているのを見て自習室を始めたが、卒業してからも地域の人が開いている場所に来られるような流れになっていくことを願っている。なかなか学校の中に入って来られないお子さんたちとどう関わるかというのが課題である。現状の放課後ステイルームとのギャップはあるが、学校を借りてサードプレイスができればと思う。

委員：　内容を決めて理想とする事業が決まらないと、どんな方が何人必要かわからない。今後も議論していきたい。

委員：　第三の居場所を必要としている子どもたちのためにと考えていくなら、コンスタントにこのような場が開催され続けることが必要だと考える。何をやるかは関係なくて、安心して時間を過ごせるか、どの時間帯が良いかを考えることが大切だと思う。

委員：　何をするかではなく、行きたくなった時に行く場があるということだと思う。

委員：　関係性作りが一番なので、教育・学習・進路ではなく、福祉的な関わりになる。しかしそこまで踏み込むと誰も手を出せなくなると思う。

委員：　どういう方たちの居場所を目指すかによって違ってくる。

委員：　先生でもない、親でもない、第三者の地域の大人が関わっていると確実に違う。人との関わり、繋がりが心の支えになると思う。

委員：　運営側は研修を受けていないと難しい。

委員：　確かに難しいが、まずは交流させてもらうのも１つの手かもしれない。

委員：　心や病気の問題、複雑な家庭環境などがある生徒に場所が必要だというニーズはあるが、ハードルが高い。

委員：　それと放課後ステイルームは距離があると思う。

委員：　放課後ステイルームに来ているお子さんの中にも話をして帰る子もいる。それでも続けていくことに意味がある。

委員：　放課後ステイルームをどのようにやっていくかという議論が必要になる。

委員：　コロナの影響で、昨年実施できたのは２回だったため、今年度は２学期３学期と続けて定着させ、気軽に寄れる自習室にしたい。今回来てくれた大学生の今後の予定はどうか？

教員：　今回来てくれた大学生、スケジュール的に来られなかった大学生も、秋以降、都合がつけば来たいと話している。

委員：　２学期以降も大学生に来ていただけたら嬉しい。先輩が来るというとモチベーションが上がる。

委員：　今は放課後イコール部活だが、いずれ部活が地域へ移って、放課後について議論する時代が来るのではないか。

（３）学校応援団の計画について

7/29(金)と 8/1（月）に、それぞれ午前９時スタートで３時間、午後１時スタートで３時間、計６時間、２日間を予定している。

内容としては、前回２月下旬に学校の玄関扉の外側を塗った残りのペンキで、扉の裏側を塗るのと、下駄箱を黄色っぽいペンキで内側以外の前面、上面、横面、を塗る予定。

前回は地域の方に参加していただいたが、今回は生徒がたくさん集まったため、基本的には生徒と一緒に活動しながら学校応援団の取組で地域の方とつながるきっかけをもてるように企画した。感染症・熱中症対策をしながら、ワイワイ楽しく塗っていきたい。来週以降きれいになった昇降口を見ていただけたらと思う。

学校応援団の取り組みとしては、通過点でしかないので、次回の学校運営協議会（10/5）までに、第１弾に参加してくださった地域の方と、今回第２弾のペンキ塗りに参加した生徒を中心に集まってもらい、ワークショップ形式で学校応援団プロジェクト第３弾に向けてどのようなことをやるか話し合いたい。

委員：　人数はどのくらいか。

委員：　午前中は２日とも７人。

委員：　１日目の午後は部活の生徒も参加する予定である。

委員：　人数は多い方が良い。下に養生シート、ガラスの周りに養生テープを貼り、扉はヤスリをかけて錆止めを３回塗るが、下駄箱は出席番号が貼ってあるので、わかるようしておいてシールを剥がして塗り終わってからまた貼れるようにしておくため、作業量は多い。

委員：　平日にやると地域の方が参加できない。逆に土日にやると生徒と職員が厳しいというのが課題である。人が足りない時間帯の対応や生徒のボランティアの募り方も考える必要がある。
募集に対して普通に地域の方や子どもたちが申し込んでくれて運営できるのが理想の形である。

委員：　今回、学校のタブレットで申し込んだ生徒は、ＱＲコードを読み込めなかったというエラーがあり、申し込みを諦めた子がいるので、その部分は大きな課題だと思う。

委員：　前回と今回の活動で内容が整理できて、さらにワークショップで本当に必要なことを割り出してやろうという人たちで良い形に迫っているのは間違いない。

（４）その他

委員：　本気のかくれんぼについて、具体的な準備をいつ頃始めたら良いか。

委員：　日程や金額的なことや細かい準備は先方と進めている。

委員：　東小育成会が主催で行うということで良いか。

委員：　そのとおりである。

委員：　雨天の場合は中止ということか。

委員：　雨天時は体育館で実施する。

3　熟議「地域学校協働活動における課題の整理」

委員：　社会教育委員会の資料に基づいて話し合いたい。

市教委：　社会教育委員の皆さまの考えられる課題を挙げていただいたが、これが全て正解というわけではない。昨年度から中学校のコミュニティスクールの中でも出ている「活動の主体がない」「保護者同士の繋がりが希薄」について、資料の改善・提案策を参考に今後の活動に活かしていただき、ご意見があれば伺いたい。

委員：　「保護者同士の繋がりが希薄」という課題では、保護者が食べながら何かを作るというのは、難しいのではないか。

委員：　明保中の現状を話し合うことで、社会教育委員の方がやったものが初めて現実的なものになる。明保中で何ができるか議論できたら社会教育委員の方の努力が実ると思う。

委員：　明保中は１年生の保護者に対して、給食試食会を行っている。第１子だと他の方と話もできて良いと思うが、コロナの影響でできていない。今は、コロナ慣れして、やらなくて済めばやらなくても良いという印象を受ける。コロ

ナ前は部活動の保護者会や試合を観戦して繋がりができていたが、最近は保護者同士の繋がりは薄くなっていると感じる。

委員：　集まる場を作ることによって初めて繋がりが強くなるところがある。

委員：　学校の活動に参加してもらうのではなく、保護者同士が繋がるきっかけが欲しい。

委員：　受験生を持つ保護者の方から、自然に情報を得る機会が全くない3年間だったと聞いている。保護者の方の繋がりで知っていくことが積み重なって地域に長くいるうちに中学校で手伝うことになった時に協力しようという気持ちの土壌になる。保護者同士の繋がりは大切だと思う。

委員：　中原小はフラワーアレンジメントをやっている。

委員：　東小も放課後子ども教室や生涯学習教室などの活動を保護者も一緒にしている。小学校は活動を積み重ねてきているが、今までやっていなかった中学校で何かをやろうと思った時にどうか。

委員：　中学校の保護者は小学校に比べて、働いている割合がかなり高い。

委員：　働いて忙しい状況の中でも子どものためならなんとか学校へ来ようと思っている保護者はいる。何か一緒にやることが大事で、それが学校行事の手伝いだったら無理なくでき、保護者同士の繋がりも増える。

委員：　東小はほとんどの子が明保中に通うが、小学校によっては数か所の中学校に分かれる。小学校から上がってきて中学校の活動ができるわけだから、積み重ねの中で、中学校でやっていこうという気持ちになる。

委員：　碧山はおやじの会が前面に出ている。入学式で家族の写真を撮ってあげたり校庭にタイヤを埋め込んで遊べるようにするなどの活動をしている。現在、子どもは卒業しておやじだけが残っているため、現役の保護者との繋がりをどうするかが課題になっている。

委員：　負担を少なくするためには、やらなくてよいことはしなくてよいと思う。昨年度、保谷小の PTA が役員制度を大幅に変更した。役員数を減らして、必要な係をポイント制にして保護者にお願いして、大変なことを減らして合理的に続けていこうとしている。

委員：　減らさなくてはいけないことと、切ってはいけないことがある。

委員：　先生との繋がりも大切にしたい。

委員：　残す域が見えないというのもある。

委員：　先日テレビで放映していたが、行事の時に手伝う人を集めるために立候補制にしたら、100 人くらい集まったという話があった。時代の変化でやっていく内容と目的も変化していると思う。中学校の改善・提案は、昔も言葉や文字に出さなかっただけで、今と同じだったと思う。昔の思い出は人それぞれ

だが、できそうなことはチャレンジしていくことが大事ではないか。
放課後ステイルームに卒業生が来てくれるというのは非常に素晴らしいことで、もっと深めていきたい。
経験した大学生にとっては、教員を目指せる違うアプローチの仕方があってもよい。委員の方がやっているのはいろいろな意味が含まれていると思う。

※次回　10 月 5 日（水）　14：30～